

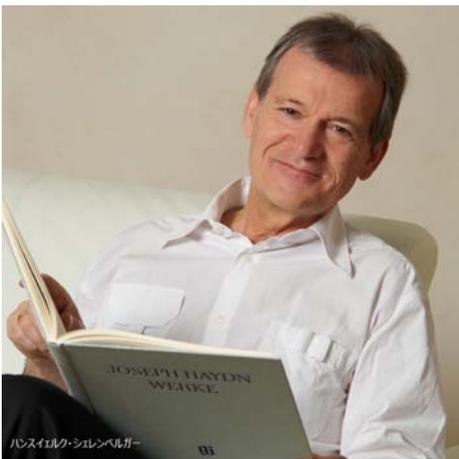
GREAT ARTIST SERIES

第12回 国際オーボエコンクール・東京 入賞者&審査委員コンサート

【出演者プロフィール】

＜第12回 国際オーボエコンクール・東京 審査委員＞

●ハンスイェルク・シェレンベルガー Hansjörg Schellenberger (オーボエ/指揮) オーボエ奏者、指揮者



1948年生まれ。大変な音楽好きの両親の元で育ち、早くから音楽に強い興味を持った。13歳からオーボエを始め、その後、ミュンヘンとデトモルトにおいてオーボエ、指揮法、そして数学を勉強。ミュンヘンのARDコンクールを含む主要な音楽コンクールで入賞後、1971年にケルン放響のオーボエ奏者となり、1975年から1980年まで同団のソロ・オーボエ奏者を務める。1977年からカラヤン指揮ベルリン・フィルにエキストラとして参加するようになり、1980年1月から2001年夏までベルリン・フィルのソロ・オーボエ奏者を務める。退団後は、指揮者、ソリスト、教育者の仕事を中心に活躍している。

これまでにソリストとして、カラヤン、ジュリーニ、アッパード、ムーティ、レヴァインなどの著名な指揮者と共演。室内楽奏者としては、アンサンブル・ウィーン＝ベルリンを中心に多彩な活動を展開。また、1991年にはハイドン・アンサンブル・ベルリンを設

立、芸術監督を務めた。

1994年から本格的な指揮活動を開始、これまでにヨーロッパを中心に世界各地のオーケストラから招かれている。2012年、2016年秋には、カメラータ・ザルツブルクを率いて日本ツアーを行い絶賛された。2013年度より岡山フィル首席指揮者、そして、3年に1回開かれ2015年に11回を迎えた国際オーボエコンクール・軽井沢の審査委員長を1994年より務めている。マドリッドのソフィア高等音楽院で教授も務めている。

●モーリス・ブルグ Maurice Bourgue (オーボエ) オーボエ奏者



誰もが認める当代屈指のオーボエ奏者の一人。バーミンガムでの国際管楽器コンクールでの優勝を皮切りに、ミュンヘン、プラハ、ブダペストのコンクールでも優勝を果たした。その実力が認められ、バーゼル管弦楽団のオーボエ・ソリストに就任、その後シャルル・ミュンシュに見出されてパリ管弦楽団のオーボエ・ソリストに抜擢された。ソリストとして世界各地の主要コンサート・ホールに出演。イ・ムジチ合奏団、ロンドン交響楽団、ロイヤル・コンサートヘボウ管弦楽団、バイエルン放送交響楽団などのオーケストラや、クラウディオ・アバド、ダニエル・バレンボイム、リッカルド・シャイーなどの指揮者と共演してきた。

2011年にバスーンのセルジオ・アッツォリーニ、ピアノの今仁喜美子と共に“モーリス・ブルグ・トリオ”を結成。

近年は指揮の世界にも活躍の場を広げ、数多くのオーケストラを指揮してきた。

オーボエ奏者としての道を歩み始めて以来、指導者としても熱心に活動し続けている。パリとジュネーヴの国立高等音楽院での常

任の職に加えて、世界中でマスター・クラスを行っており、数多くのオーボエ奏者がこの巨匠の指導を仰いでいる。

EMI、Decca、DGG、Nimbus、Calliope、日本コロムビア、ECMなどでレコーディングを行っており、シャルル・グロ・アカデミー大賞を度々受賞。

最近、ワーナーで、ボストン交響楽団のトップ・ミュージシャンたちと共演する室内楽のレコーディングを実現させた。2018年には、オーストラリア、ブリスベンのセント・ジョンズ・カメラータと、シュトラウス、マルティヌー、オネゲルの3曲の協奏曲をレコーディングするプロジェクトが進行中である。

1994年の第4回から、国際オーボエコンクールの審査員を務めている。

●古部賢一 Ken-ichi Furube (オーボエ)

新日本フィルハーモニー交響楽団 首席オーボエ奏者



東京藝術大学在学中に小澤征爾に認められ、新日本フィルハーモニー交響楽団の首席オーボエ奏者に就任。その後ミュンヘン音大大学院でG.パッシンに学ぶ。ハンブルク北ドイツ放送響、ベルリン・ドイツ響、ベルリン放送響等に客演首席奏者として招待され、ソリストとしても国内外のオーケストラや、E.パユ、P.メイエ、R.キュッヒル、諏訪内晶子、榎本大進ら世界的アーティストたちとの共演を重ねる。鈴木大介とのデュオや渡辺香津美、小曽根真らとの共演など、ジャンルを超えた多彩なコラボレーションも展開。ラ・フォル・ジュルネ音楽祭、セイジ・オザワ松本フェスティバル、宮崎国際音楽祭、木曾音楽祭、ル・ボン国際音楽祭などに出演。15歳から指揮活動もしており、これまでに静岡交響楽団、シエナ・ウインド・オーケストラ、東京佼成ウインド・オーケストラ等と共演している。東京音大、相愛大、桐朋オーケストラアカデミー非常勤講師、札幌大谷大(芸術学部)客員教授。国際オーボエコンクール・東京、日本音楽コンクール等の審査委員を務め、先年には母校ミュンヘン音大から招かれマスタークラスを行った。出光音楽賞をオーボエ奏者として初めて受賞(1999年度)。

東京音大、相愛大、桐朋オーケストラアカデミー非常勤講師、札幌大谷大(芸術学部)客員教授。国際オーボエコンクール・東京、日本音楽コンクール等の審査委員を務め、先年には母校ミュンヘン音大から招かれマスタークラスを行った。出光音楽賞をオーボエ奏者として初めて受賞(1999年度)。

●ゴードン・ハント Gordon Hunt (オーボエ)

ロンドン室内管弦楽団 首席オーボエ奏者、元フィルハーモニア管弦楽団 首席オーボエ奏者、指揮者



ロンドン生まれ。テレンス・マクドナーに師事。オーボエのソリスト及び指揮者として世界各地で演奏活動を行う傍ら、マスタークラスの指導にもあたり、また数々の著名な室内アンサンブルと共演している。オーケストラでの実績も豊富で、ロンドン室内管弦楽団とワールド・オーケストラ・フォア・ピースで首席オーボエ奏者を務めている他、以前にはフィルハーモニア管弦楽団、ロンドン・フィルハーモニー管弦楽団の首席オーボエ奏者でもあった。

世界有数のオーボエ奏者の一人とされており、ソリストとしてアシュケナー、サー・アンドリュー・デイヴィス、ジュリーニ、コンドラシン、ムーティ、サー・ジョン・プリチャード、サー・サイモン・ラトル、シノーポリ、ウェルザー＝メストなどの指揮者と共演してきた。

BMG、EMI、BIS、ヴァージン等のレーベルで幅広くレコーディングを行っており、モーツァルトによるソロ曲はすべて網羅している。アシュケナーが指揮するベルリン放送

交響楽団とのリチャルト・シュトラウスの協奏曲のレコーディング(デッカ)は、ペンギンCDガイドで、流通しているCDの中のベスト盤に選ばれた。

指揮者としても益々知名度を上げており、現在デンマーク・チェンバー・プレイヤーズやスウェーデン室内吹奏楽団の音楽監督を務めている。

これまでに南アフリカ国立交響楽団、デンマーク放送シンフォニエッタ、ロンドンのサウスバンク・シンフォニア等多数のオーケストラを指揮。近年ではジョージア、ニュージーランド、ブラジル、イギリス、アメリカで指揮をした他、ニューヨークではセントルークス管弦楽団を、カリフォルニアではレッドランズ交響楽団を指揮した。

現在はギルドホール音楽院の教授、王立音楽アカデミーの名誉アソシエイトの地位にある。「国際オーボエコンクール」の審査委員を1997年より務めている。2010年にはユネスコ平和芸術家に任命された。

使用楽器はロンドン、ハワース社のXLオーボエ。

●小畑善昭 Yoshiaki Obata (オーボエ)

東京藝術大学音楽学部教授



東京藝術大学卒業、同大学院修了。在学中、第42回NHK毎日音楽コンクール管楽器部門第3位入賞。1979年より1982年まで東京交響楽団に在籍し、その後ベルリンへ留学。帰国後、新日本フィルハーモニー交響楽団の首席オーボエ奏者をつとめた。現在は東京藝術大学教授として後進の指導にあたるかたわら、独奏及び室内楽、また古楽器奏者としても演奏活動を繰り広げている。

●ドワイト・ペリー Dwight Parry (オーボエ)

シンシナティ交響楽団 首席オーボエ奏者



シンシナティ交響楽団首席オーボエ奏者であると共にシンシナティ大学音楽院にて教鞭をとる。以前はサン・ディエゴ交響楽団の首席奏者及びニュー・ワールド・シンフォニーのフェロー（団員）でもあった。ニューヨーク・フィルハーモニック、シカゴ交響楽団、サン・フランシスコ交響楽団、アトランタ交響楽団、ロス・アンジェルズ・オペラ、ベルリン・ドイツ交響楽団と客演もしている。海沿いの南カリフォルニアの出身で、ピアノ、声楽、サクソに音楽的興味を持ったが、オーボエの演奏を始めたのは高校の高学年になってからだった。ジョン・マック、アラン・フォーゲル、デイヴィッド・ウェイスを師と仰ぎ、ウェイスには波乗りも教わった。

コンチェルト、リサイタル、マスタークラス、室内楽など、世界各地で演奏と指導を行っている。最近のシーズンには、ジャン・フランセの『花時計』、モーツァルトの『オーボエ協奏曲』、アレクサンドロ・マルチェッロの『オーボエ協奏曲』に加え、特に好んでいる作品である、リヒャルト・シュトラウスの『オーボエ協奏曲』を4回演奏した。

オーボエを手にしていない時には、地元でコンサートや演劇を鑑賞している。その他の余暇の過ごし方としては、ハイキングやランニング、ボランティア活動をしたり、frisbeeを投げたり、読書をしたり、台所で珍しい料理を作ったりしている。

ペリーはローレのアーティストである。

●吉田 將 Masaru Yoshida (ファゴット)

読売日本交響楽団 首席ファゴット奏者



武蔵野音楽大学音楽学部器楽科卒業後、1986年ドイツ国立ハノーファー音楽大学研究学部ソリストクラス入学。クラウス・トゥーネマン氏に師事。1987年ユンゲ・ドイチェフィルハーモニー（ドイツ連邦学生選抜オーケストラ）に首席奏者として入団。ケルン・カンマー・オーケストラ、ドイツ・カンマー・フィルハーモニー契約団員。1989年ドイツ国立ハノーファー音楽大学研究学部卒業国家演奏資格試験受験資格取得。同年、ベルギー王立フレミッシュオペラに首席奏者として入団。同年、読売日本交響楽団へ首席奏者として就任。1998年より宮崎国際室内楽音楽祭レギュラーメンバー。2002年よりサイトウ・キネン・オーケストラ（セイジ・オザワ・松本フェスティバル）首席奏者として毎年出演。現在、読売日本交響楽団首席ファゴット奏者、小澤征爾音楽塾講師、洗足学園音楽大学客員教授、武蔵野音楽大学講師。

●荒木奏美 Kanami Araki (オーボエ) [ゲスト出演]

第11回 国際オーボエコンクール・軽井沢 第1位[大賀賞]



1993年生まれ、茨城県東海村で育ち、9歳より吹奏楽部でオーボエを始める。東京藝術大学首席卒業。2016年同大学院に進学。

これまでにオーボエを坂本真紀、成田恵子、和久井仁、小畑善昭、青山聖樹の各氏に、室内楽を山本正治、高木綾子、日高剛、伴野涼介の各氏に師事。

3年次在学中にオーディションに合格し、2015年6月より東京交響楽団首席オーボエ奏者を務める。

同年10月、第11回国際オーボエコンクール・軽井沢において日本人初の第1位(大賀賞)、軽井沢町長賞(聴衆賞)を受賞。

その他、第7回ジュニア管打楽器コンクールオーボエ部門第1位。第8回大阪国際音楽コンクール木管部門第3位(最高位)、21世紀アーティスト賞。第17回日本クラシック音楽コンクール

木管楽器部門グランプリ。第31回日本管打楽器コンクールオーボエ部門第2位など。東京藝術大学学内において安宅賞、アカンサス音楽賞受賞。平成27年度青山財団奨学生。第27回(2016年度)出光音楽賞を受賞。

●江口雅子 Masako Eguchi (ピアノ)



江口雅子

洗足学園大学音楽学部ピアノ科及び専攻科卒業。在学中奨学金を得てハンガリーのリスト音楽院にて研鑽を積む。

その後リスト音楽院にて伴奏講師として教鞭をとる。ハンガリーの数々の管楽器コンクールにて最優秀伴奏賞を受賞。2004年渡独、シュトゥットガルト音楽大学に迎えられる。コレパティートルとしての活動が多方面に渡って評価され、現在、シュトゥットガルトの他、ケルン、マインツ、バーゼルの各音楽大学でも教鞭をとる。

インゴ・ゴリツキ、クリスティアン・ヴェッツェル、エマヌエル・アッビュール、クリスティアン・シュミットなどの著名な教授たちのクラスを担当。

室内楽奏者として、BBC ラジオ（イギリス）のランチタイム・コンサート、SWR ラジオ（ドイツ）やバルトクラジオ（ハンガリー）での室内楽コンサート、「ボン・ベートーヴェン音楽祭」（ドイツ）など数多くのコンサートで演奏、多数の著名な音楽家と共演。室内楽のパートナーの一人であるフィリップ・トンドゥル（「第9回 国際オーボエコンクール軽井沢」第2位受賞者）と共演した「ボン・ベートーヴェン音楽祭」に於ける室内楽コンサートは2012年の「ベートーヴェン・リング賞」を受賞している。

その他、「ミュンヘン国際コンクール」、「マークノイキルヒェン国際コンクール」や数々のオーケストラオーデションにおいて公式伴奏者としても活躍している。

その他、「ミュンヘン国際コンクール」、「マークノイキルヒェン国際コンクール」や数々のオーケストラオーデションにおいて公式伴奏者としても活躍している。

●栗形亜樹子 Akiko Kuwagata (チェンバロ)



栗形亜樹子 撮影：林喜代様

東京生まれ。東京藝術大学附属音楽高校作曲科卒、同大作曲科を中退し、DAAD ドイツ政府奨学生としてデトモルト音楽院、シュトゥットガルト芸術大学のチェンバロ科を卒業、国家演奏家資格取得。パリに移りセルジー国立地方音楽院、ショーム市立音楽院で教鞭を取る傍らヨーロッパ各地で演奏活動に従事。日本文化庁在外研修員としてイタリア、スペインでチェンバロ、オルガンの研鑽を積む。第8回 ブリュージュ国際チェンバロコンクールで1位無し2位他、FEP パリ国際チェンバロコンクール、ライプツィヒ・バッハ国際コンクールなどに上位入賞。17年に亘る欧州滞在の後2000年に帰国した後は東京を中心に多様な活動を展開、古典音律、奏法に関するセミナーも数多く開催している。チェンバロをケネス・ギルバート、リナルド・アレックスサンドリーニ、故ヴァルデマル・デューリンク氏に、オルガンをオディール・バイユー、ゴンサレス・ウリオル氏に師事。現在東京藝術大学非常勤講師、松本市音楽文化ホール講師。1997.2003.2007年山梨古楽コンクール審査員。2017年12月にソロ・アルバム『メデテーション〜フローベルガーの眼差し〜』をdream window "Tree"レーベルよりリリース、現在全世界にハイレゾ配信されている。

その後リスト音楽院にて伴奏講師として教鞭をとる。ハンガリーの数々の管楽器コンクールにて最優秀伴奏賞を受賞。2004年渡独、シュトゥットガルト音楽大学に迎えられる。コレパティートルとしての活動が多方面に渡って評価され、現在、シュトゥットガルトの他、ケルン、マインツ、バーゼルの各音楽大学でも教鞭をとる。

●西野ゆか Yuka Nishino（ヴァイオリン）、吉田有紀子 Yukiko Yoshida（ヴィオラ）、大友肇 Hajime Otomo（チェロ）

[クアルテット・エクセルシオより 弦楽トリオ]



「繊細優美な金銀細工のよう」（独フランクフルター・アルゲマイネ紙）と'16年ドイツデビューで称賛された、年間70公演以上を行う日本では数少ない常設の弦楽四重奏団。ベートーヴェンを軸に王道レパートリーの『定期公演』、20世紀以降の現代作品に光をあてる『ラボ・エクセルシオ』、人気傑作選『弦楽四重奏の旅』、モーツァルトをとりまく時代や作品を紹介する『アROUND・モーツァルト』の4シリーズを展開しつつ全国的に活動。加えて、室内楽の聴衆の輪を広げる活動も積極的に行い、米国、欧州、アジアと海外公演も回を重ねている。第5回パオロ・ボルチアーニ国際弦楽四重奏コンクール最高位、第19回新日鉄音楽賞「フレッシュアーティスト賞」、第16回ホテルオークラ音楽賞など受賞歴多数。'16年サントリーホール主催により2週間でベートーヴェンの弦楽四重奏全16曲チクルスを日本団体として初演奏。同年6月まで6年間『サントリーホール室内楽アカデミー』にてファカルティを務め、引き続き後進の指導にもあたっている。

オフィシャル・ウェブサイト <http://www.quartet-excelsior.jp/>

●東京フィルハーモニー交響楽団 Tokyo Philharmonic Orchestra（管弦楽）



1911年創立。2011年に日本のオーケストラとして最初の100周年を迎えた、日本で最も長い歴史をもつオーケストラ。メンバー約130名。シンフォニーオーケストラと劇場オーケストラの両機能を併せもつ。名誉音楽監督にチョン・ミンフン、首席指揮者にアンドレア・バッティストーニ、特別客演指揮者ミハイル・プレトニコフを擁する。Bunkamura オーチャードホール、東京オペラシティ コンサートホール、サントリーホールでの定期演奏会や「平日／休日の午後のコンサート」を中心とする自主公演、新国立劇場等でのオペラ・バレエ演奏、『名曲アルバム』『NHK ニューイヤーオペラコンサート』『題名のない音楽会』

『東急ジルバスターコンサート』などの放送演奏により全国の音楽ファンに親しまれる存在として、高水準の演奏活動とさまざまな教育的活動を展開している。海外公演も積極的に行い、国内外から高い注目を集めている。

1989年から Bunkamura オーチャードホールとフランチャイズ契約を結んでいる。東京都文京区、千葉県千葉市、長野県軽井沢町、新潟県長岡市と事業提携を結び、各地域との教育的、創造的な文化交流を行っている。